

銀賞 丹治 和仁君

北海道工業大学空間創造部建築学科

さまよえる遺骨たち—アイヌ鎮魂を願う納骨堂再建計画

北海道の先住民族アイヌは死者を自然に帰す意味で亡骸を土葬にする。墓には墓標もなくまさに森の中の樹林の間に穴を掘り埋葬する。文字がなかったアイヌは記録がなくその先住民族の調査のために北海道大学が発掘により人骨を収集し研究を行っている。その亡骸を葬るための施設として計画されたこの建物は千歳川の支流に聖地をつくり、北海道全域から収集された遺骨をかつて埋葬されていた各地へ放射状に延びる軸線上に石棺を配列し安置する計画となっている。それらの石棺の数の多い少ないにより自然にランダムな状態となり、それは一つの造形を成している。また軸線の中心には直径100m近い皿状の鉄の水盤が浮いており、「あの世」と「この世」を分ける装置として天水を受けている。さまよえる遺骨たちはようやくこの地に眠ることができる。造形力を感じるこの作品のよさは、計画の根拠と手法が素直に受け入れることができることであり、大地にかすかに浮かぶ水盤の迫力である。これらが相俟って鎮魂に対する静寂感が醸し出された美しい秀作として評価された。

(文責：小西 彦仁)